

二〇二三年度 大阪公立大学個別学力検査(一般選抜 前期日程)

国語「出題の意図・解答例」

第一問

問一は、本文のこれ以降の内容を理解するための導入として、筆者が携わる舞台芸術の一回性について理解できているかを問う。筆者の言う「時間芸術」と「本」を対比させて説明する。

問二は、傍線部以降の内容を理解するために重要となる「時間という物差し」について、まずは献花という具体例に即して考察するための問題。引用文で述べられている内容を、わかりやすく解釈して示す。

問三は、問二をふまえ、目に見える、数字で測れる基準では対象の本質的価値は評価できない、という筆者の主張を理解できているかを問う。「物差し」「馬鹿らしく」なる、ということの内実をわかりやすく説明することが求められる。

問四は、問三での考察を受け、見える部分だけで判断することの危うさを説く筆者の主張が理解できているかを問う。傍線部の直前に示されている能の稽古の例に即して、具体的に説明する。

問五は、ここまでの設問での考察を受け、本文後半の趣旨をふまえて、筆者が考える「自分の評価軸」の重要性を理解できているかを問う。「自分の評価軸」の内実はもちろんのこと、「点検」や「対象の内部へ迫る」とはどういうことかを、自分の言葉でわかりやすく具体的に説明することが求められる。

第二問

問一(解答例)

Ⓐ代替 Ⓑ抑止 Ⓒ弁明

問二は、「実害対応型の応報刑論」であっても、単純に「実害の重さ」だけで「刑の重さ」が決まるわけではないこと理由を問う。傍線部以前の具体例や、「ブレーキ」という比喩的表現を用いずに解答する必要がある。

問三(解答例)

手段ないし方法

※この解答は一例です。

問四は、「刑罰」の「本質」(根本的性質)について説明している文章をわかりやすく言い換えさせる設問。傍線部の少し後に詳しい説明がある。

問五は、問四を承け、国からの非難の告知が持つ、犯罪の「一般予防効果」について、その内容が正しく理解できているかを試す設問。「メッセージ」の具体的内容を自身で補う必要がある。

問六は、日本の刑罰制度の運用について、筆者が対比的にいう「マクロの視点」「ミクロの視点」とは、それぞれ具体的にどのような視点をいうのかを問う。

問七は、この文章全体で筆者が何を問題提起しているのかを問うまとめの設問。傍線部前後の説明を参考にしてまとめる。

第三問(A)

問一は、基本的な語彙の理解を確認するための設問。

問二は、「聞きなす」という行為の内実を、二箇所の用例から推測させようというもの。

問三は、和歌の掛詞に関する基本的設問。

問四は、侍従が中将に虚偽の報告をしている理由を、その直前の姫君の侍従への発言から判断させる問い。

問五は、反語表現の省略された文末部分を想定させる問い。解答は複数ありうる。

問六は、文脈から「御心ざし」が中将のものであることを押さえた上で、「心ざし」「思ひ知る」「いかでか」という基本的な語彙・語法を理解して現代語訳ができているかどうかを問う。

問七は、「人聞き」を気にする姫君の気持ちを推測させる問い。中将と「心あはせ」たという噂が「都まで聞こえてしまうこと」「つつまし」く思うという傍線部の概要を、古語の理解の上にわかりやすく説明できるかどうかを問う。

問八は、尼君がどのようにに姫君を説得しようとしているかを読み取らせようとする問い。傍線部の直前では、姫君の置かれた状況には「あはれを知らぬ武士」であつても同情を寄せるだろうと述べ、さらに傍線部の直後では、継母がむりやり姫君と中将の仲を引き裂いたという状況を考えれ

ば、二人が「心あはせ」たことを誰も批判などするはずがないと述べる。こうした尼君の説得の流れを押さえた上で、傍線部の言わんとするところを推測させようとするものである。

第三問(B)

問一は、傍線部の比喩の内容を正しくとらえられているかを試す設問。

問二(解答例)

しくはなし

※基本的な句法の知識を問う。

問三は、傍線部の現代語訳。傍線部より前の部分の内容をふまえて訳すことを求めている。

問四は、傍線部の比喩について説明させることによって、傍線部より前の部分の内容を正しく読み取り、比喩の意味をとらえられているかを試す設問。

問五は、傍線部について説明させることによって、文章後半の内容を正しく読み取ることができているかどうかを試す設問。